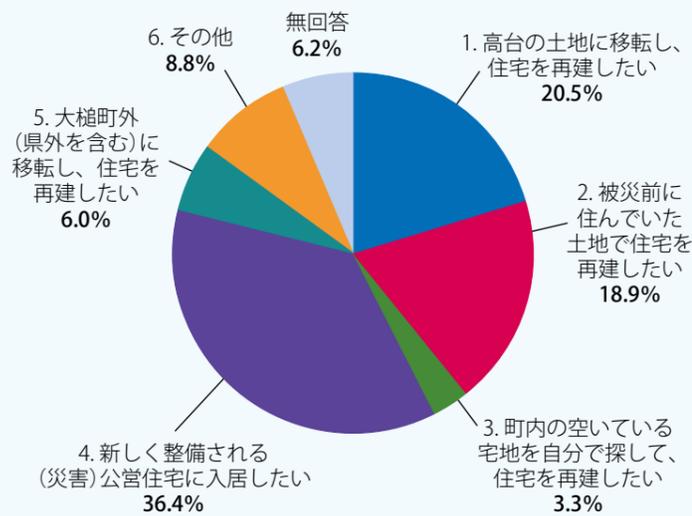


C. 住宅再建の考え（今後の住居形態）

住宅再建の考え（今後の住居形態）については、高台への移転のほか、被災前に住んでいた土地や町内の他地域での住宅再建を望む世帯が1,160世帯と全体の42.7%となっています。また、災害公営住宅に入居を希望する世帯も989世帯、36.4%と多く、住宅再建を希望する世帯と公営住宅への入居を希望世帯に大きな差異がない状況となっています。

被災前に住んでいた土地での住宅再建を望む世帯の住所地の内訳をみると、基本計画で現状のまま居住できる地域として示されている「桜木町・花輪田地域」や「沢山・源水地域」、「町方地域」の回答が多くなっています。

また、町外（県外を含む）に移転し、住宅再建する世帯は全体の6%で、その理由としては「被害大きくすぎて生活する気持ちになれない」、「復興に時間がかかりそう」、「安全な内陸部へ移転したい」が主なものとなっています。転出先については、一時避難先となっている盛岡市、北上市、花巻市や仮設住宅への入居者が多い釜石市となっています。



被災前住所地の内訳

町名	回答数	町名	回答数	町名	回答数
新町	15	花輪田	19	赤浜一	11
大町	27	沢山	44	赤浜二	18
本町	35	源水	21	吉里一	17
末広町	38	大ケ口一	4	吉里二	28
上町	50	安渡一	12	吉里三	11
須賀町	9	安渡二	14	浪板	7
栄町	7	安渡三	13	その他	5
小枕	5	新港町	4	未記入	4
桜木町	94	港町	2	合計	514

転出の理由

住宅再建の考え	回答数
1. 高台の土地に移転し、住宅を再建したい	557
2. 被災前に住んでいた土地で住宅を再建したい	514
3. 町内の空いている土地を探して、住宅を再建したい	89
4. 新しく整備される(災害)公営住宅に入居したい	989
5. 大槌町外(県外を含む)に移転し、住宅を再建したい	164
6. その他	239
無回答	168
計	2,720

町外への転居理由	回答数
1. 被害があまりにも大きすぎて、大槌町で生活する気持ちになれないから	78
2. 絶対に津波が来ない安全な内陸部へ移転したいから	63
3. 町の復興に時間がかかりそうだから	73
4. 地元で就職先が見つからないから	25
5. 今後は町外に居住する家族や親戚と生活する予定だから	49
6. 子どもの教育環境や精神面などを考慮したから	35
7. 医療・福祉の体制が不安だから	54
8. その他	22
計	399

A. 回収状況（回答者の状況）

全体の回収率は7割を超えており、また、町内の応急仮設住宅については、1月19日～27日の期間に訪問回収を実施したため、9割近い回収率となっています。

回答者2,720世帯のうち、世帯主が60歳以上の世帯が1,594世帯と全体の58.7%を占めています。

現在、町内に居住している世帯からの回答が2,127世帯と全体の78.2%、町外に居住している世帯からの回答は590世帯で、全体の21.7%となっています。

また、一人暮らしの単身世帯は733世帯で、全体の26.9%を占めています。

(1) 回収率

	配布数	回収数	回収率
町内仮設住宅	1,882	1,679	89.2%
全体	3,787	2,720	71.8%

(2) 年齢別

世帯主の年齢	回答数
20歳代以下	61
30歳代	199
40歳代	328
50歳代	504
60歳代	696
70歳代	627
80歳代	271
無回答	34
計	2,720

(3) 現在の居住別

現在の居住地	回答数
町内仮設住宅	1,679
町内仮設住宅以外	448
町外	590
無回答	3
計	2,720

(4) 被災前の行政区別

行政区名	回答数		行政区名	回答数		
	行政区	地区計		行政区	地区計	
新町	134	1,058	安渡三	105	486	
大町	167		新港町	171		
本町	102		港町	9		
末広町	159		赤浜一	62	166	
上町	154		赤浜二	102		
須賀町	172		赤浜三	2		
栄町	170		吉里吉里一	100	274	
小枕	64		64	吉里吉里二		87
桜木町	222		290	吉里吉里三		86
花輪田	68		293	吉里吉里四		1
沢山	147	293	浪板	42	42	
源水	64		その他の町内	22	22	
大ケ口一	82		住戸外	9	9	
安渡一	83		無回答	16	16	
安渡二	118		計	2,720	2,720	

B. 住宅再建で重視すること

住宅再建するうえで最優先で重視する点を見ると、「生命や財産の安全性」、「再建費用」、「時間的スピード」の順となっております。

また、上位3点として選ばれた優先項目をみると、最優先項目は「生命や財産の安全性」に変わりありませんが、以下「生活の利便性」、「再建費用」をあげる声が高くなっており、安全で利便性のよい場所に、出来るだけ負担が少なく早く再建したいという希望が強い状況となっています。

住宅再建で重視している点	優先度1	優先度2	優先度3	計
1. 地震や津波などの災害に対して、生命や財産の安全性	1,618	272	247	2,137
2. 病院や商店までの距離、交通の便など生活の利便性	231	754	534	1,519
3. 震災前の隣近所の親類や友人など、地域とのつながり	66	262	420	748
4. 住宅再建(入居)までの時間的スピード	295	419	483	1,197
5. 土地取得や住居施設、住宅借上げ等に係る再建費用(自己負担額)	314	559	413	1,286
6. 児童・生徒の安全面や通学距離などの教育環境の充実	32	184	190	406
7. 水産加工業の早期再開や企業誘致等による就労先の確保	33	108	144	285
8. 公園や緑地、街並などの景観や自然環境	3	16	113	132
9. その他	22	3	3	28
計	2,614	2,577	2,547	7,738